

核廃棄物文献調査受け入れに反対の意思表示をしてください

島古丹から能津登の海岸はもっと豊かだった

〈2020.9.6〉

私は、鮫取澗に生まれ、高校を卒業後に就職で札幌に移りましたが、40年ぶりにこの地に戻り、小さなペンションを経営しながら、先祖が残したわずかな農地を耕して生活をしています。せっかく戻ったことでもありますから、町に貢献できればとの思いで、役場に頼まれボランティアでいくつかの仕事をさせていただいております。

いま、片岡春雄町長は核廃棄物処分場の文献調査に応募するというので、住民説明会を開催していますが、8月13日の新聞発表以来、当初の説明からどんどん内容をエスカレートさせ、地下に施設を作らせて調査する精密調査まで考えています。(知事との対談で話している)

私たち団塊の世代以前の方々は良くご存知と思いますが、島古丹や能津登の海岸は真っ黒な砂鉄で覆われていました。夏休み前の水泳教室で、海までの距離を歩くのが辛かったことを覚えていませんか。

これから厳しい冬が来ますが、能津登の沖でハタハタ漁が行われていたことは忘れませんか。岸边にはアマモが繁茂していましたよね。記録がないので記憶だけですが、なぜ失われてと思いますか。磯焼けなどの自然環境変化もあるでしょうが、この砂鉄をしゅんせつしてしまったのが大きな原因ではないかと思うのです。

私の記憶ですが、当時の親世代の方々は少ない情報を集め、①海岸線がなくなる。②海が汚れて魚が来なくなる。と反対していました。賛成の意見を聞いたことはないですが、原発導入を受け入れたすぐ近くの町村と似ていませんか。原発が来ると(砂鉄を売れば)、産業が活性化され、人口が増えて町が豊かになる。いかがですか？豊かになっていますか？豊かになったのは一部の方々でしかないでしょう。

町長の発言にある「財政が苦しくなるから将来を見据えて」は導入ありきで、最近では「若い世代にこれからを託す」と言っています。なんという傲慢な発言だとは思いませんか。

沖縄でも、学者が「軟弱地盤で構造物を作るのに適さない」と言っているのに、一度でも目を付けたら、住民がいくら反対しても権力を使って排除し強行してきます。幌延の工事の時も強行しましたよね。公権力というものはそういうものなのです。

すでに、町内の施設職員にも「署名に賛同するな」「会議に出席してはいけない」などの圧力がかかっているのを聞いています。

「調査位ならいいのでは」「20億円は欲しい」と調査容認をお考えの方にお願ひします。

いろいろな考えがあってもいいのですが、利益になることだけで考えておりませんか。良いことには必ず不利益なことが付いてくるが普通のことですよ。

町長や役場のやっていることは「良いこと」だけを前面に出し、財政難を人質にしているいませんか。冷静な開かれた意見交換や住民説明の場を設け、地質学者や、核を扱う学者などの意見を全住民に知ってもらおう努力をしてからでもよいのではないですか。なぜ、結論を急ぐのでしょうか。疑問に感じませんか。